けいはんなビュー View
［広報誌］

けいはんなから新しい産業を

VOL.27

【寄　稿】
学研都市の30年後を考えること
国際高等研究所 所長　長尾 真 氏

【けいはんなを知る】P4～5
けいはんな学研都市の歩み（1／3）

【注目！企業インタビュー】P12～13
株式会社 プロキダイ

【けいはんな 温故知新】 P14～15
四條畷市

P1～ 特集
「けいはんな学研都市新たな都市創造委員会」が始動

P6～ Who's Who?
「けいはんな記念公園 管理事務所所長 山口 隆史 氏」

（公財）関西文化学術研究都市推進機構
関西文化学術研究都市建設推進協議会

学研都市の30年後を考えること

国際高等研究所所長
長尾 真 氏

けいはんな学研都市が整備され始めてから30年が経過した。純粋な研究開発だけでなく、一部製造活動を行う研究開発型産業施設の立地も認められるようになって、今日では128の施設※が活動するまでに成長してきて、活力がより一層出てきている。

ここで大切なことは、これまでの30年間を振り返り、次の30年を考える事だろう。例えば、学術研究･先端技術開発の理想都市であるとともに、文化的で住みやすい田園的･林間的都市を目指すにはどうすればよいかといった目標と、そこに到るプロセスをしっかりと描くことである。

30年先ということになれば、地球資源の枯渇、人口や環境問題などがより深刻となっていて、これまでのような進歩発展史観は成り立たず、資源の循環的、効率的な利用、定常経済社会といった方向を目指さざるを得なくなるだろう。そういった将来の世界に軟着陸してゆくための科学技術や経済･産業･社会活動は如何にあるべきかについて真剣に検討する必要がある。また、国や民族間の対立抗争とそれにかかわる軍事産業といった人類の幸福にとって全く反生産的なことを無くし、お互いに平和的共存を目指すことが必須となるが、それはどうすれば実現できるかといった人間性や思想などが深くかかわる難問にも直面する。

私たちの研究所ではこういった非常に難しいが挑戦し甲斐のある問題を取り上げ、日本の英知を集め学際的に議論する活動を始めた。2、3年先には社会の多くの人たちの共感が得られる提案を出し、国内はもちろん世界にアピールし、共感してくれる外国の機関、シンクタンクなどと協働し、その活動の輪を世界的に広げてゆきたいと思っている。

※2015年7月末現在

けいはんな30年の成果をふまえ、次の時代の取り組みを検討する「けいはんな学研都市新たな都市創造委員会」が始動

関西文化学術研究都市は、1987年の関西文化学術研究都市建設促進法の施行を経て国家プロジェクトとして本格的に都市建設が推進され、現在では人口約25万人、約130もの文化学術研究施設が立地しています。また、世界トップクラスの研究をはじめ、オンリーワン技術を活かした研究開発など様々な分野で顕著な成果も現れており、世界でも有数のサイエンスシティとして成長してきています。

こうしたなか、平成27年度は「サード・ステージ・プラン」の最終年度を迎えます。本都市は、これまで培ってきた多様な分野における取り組みの成果や集積等を活かし、イノベーションにおける様々な「壁」を乗り越え、技術、人材、資金の好循環を誘導するなど、サード・ステージ後の新たなステージにおいても、一層その存在感を高めていくことが期待されています。同時に、新たな国土形成計画や第5期科学技術基本計画上の役割も益々重要になってくるものと考えられます。

そこで、けいはんな学研都市30年の成果をふまえ、次の時代にむけ、どのように取り組んでいくべきかについて、関係者が総力を挙げ検討し、認識を共有することが急務と考え、「けいはんな学研都市新たな都市創造委員会」を設置し、本都市の新たなステージにおけるビジョン及びビジョン実現のための戦略等について議論していただくこととしました。

新たな都市創造に向けた取組

平成26年度	平成27年度	平成28年度以降
新たなステージにおけるあり方検討協議会	**けいはんな学研都市新たな都市創造委員会**	（仮称）けいはんな学研都市新たな都市創造会議
「けいはんな学研都市新たなステージにおけるあり方（素案）」	けいはんな学研都市の新たなステージにおけるあり方の取り纏め ●学研都市の到達点と課題認識 ●新たな都市創造の理念、ビジョン、実現戦略 ●取組体制 関係者が総力を挙げ検討し、認識を共有	取組の推進 進捗管理等

本委員会は、学識者、国（中央府省、近畿各局）、府県市町、関係経済団体、立地機関、まちづくり連携機関等67に及ぶ関係者（P3）で構成されます。また、国土交通省、公益社団法人関西経済連合会、京都府、大阪府、奈良県、公益財団法人国際高等研究所、株式会社けいはんな、公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構の8者が幹事会を構成します。

第1回総会開催

山極 壽一 委員長

7月29日、ウェスティン都ホテル京都において、関西文化学術研究都市サード・ステージ推進会議第9回総会および、けいはんな学研都市新たな都市創造委員会第1回総会が開催されました。

サード・ステージ推進会議では、サード・ステージ10年間における成果と課題について話し合われ、サード・ステージ全体を通じた評価として取り纏められました。なお、サード・ステージ推進会議については、今回をもって最終回となりました。

その後、行われた新たな都市創造委員会では、冒頭、主催者を代表し、早川国土交通省都市局都市政策課都市政策調査室長から挨拶および本委員会設置の趣旨説明が行われました。

次に、山極京都大学総長が委員長に選出され、柏原関西文化学術研究都市推進機構理事長が副委員長に指名されました。山極委員長からは、「けいはんな学研都市は概ね30年が経過し、サイエンスシティとしての集積、研究等成果の蓄積が着実に進展していると聞いています。30年という長い歴史のなか、けいはんな学研都市に関連する、国をはじめとする、これだけ多くの方が一堂に会して審議いただくことになったのは、本学研都市への大きな期待のあらわれかと思います。本委員会では委員の皆様の英知を結集し、これまでの成果を生かし、今後の本学研都市のあり方を取りまとめていきたいと思いますので、活発な議論をよろしくお願い申しあげます。」と挨拶がありました。

続いて、幹事の関西文化学術研究都市推進機構の瀬渡常務理事から過去30年間の成果と新たな都市創造に向けた取組について説明があり、その後、意見交換が行われました。委員から、けいはんな学研都市全体の方向性やビジョンに関すること、イノベーション、新産業の創出等に関すること、都市形成に関すること、都市運営に関すること等について大所高所からの貴重なご意見を頂きました。（詳しくは、推進機構ホームページをご覧ください。）

最後に山極委員長は、「昨今は世界の動きが非常に加速化しており、そのなかにあってイノベーションの創出というのは非常に重要な課題となっています。そのためにもこのけいはんな学研都市はこの歴史のうえに立って、新たなミッションをつくらなくてはならない時代に入ったということだと思います。また、本日さまざまな意見が出ました。産官学の一体化というのは非常に重要なことであり、なおかつそのなかにおいても住民の方々の存在は非常に重要であって、イノベーションの実装化、そして事業化というなかからとにかく世界企業というものをきちんと作っていかなければならないという課題も示されました。そして歴史、文化の重要性、アートの重要性も、このけいはんな学研都市の発展に不可欠なものであるというご意見もいただきました。とりわけ健康長寿社会のモデル都市、都市のコンパクト化のモデルとして学研都市が構想されるのではないかというご提案もいただきました。現在60%が整備されているということですが、これから未整備の場所も含めて、インフラストラクチャーの整備、さまざまなオープンイノベーションの開発に向けて企業、大学、行政、そして住民の方々が協力して、さまざまな意見交換をしながら将来のビジョンをつくっていくことが必要だと思いました。」と総括されました。

本委員会は、今回を含め年度内に3回の開催を予定しており、新たな都市創造に向けたけいはんな学研都市のあり方として、ビジョンとビジョン実現に向けた戦略をまとめていく予定です。

● けいはんな学研都市新たな都市創造委員会　委員名簿

平成27年7月29日現在

役　職　名		氏　名
<委員長>	国立大学法人京都大学総長	山極　壽一
<副委員長>	公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構理事長	柏原　康夫
<顧　問>	公益財団法人先端医療振興財団名誉理事長（京都大学名誉教授）	井村　裕夫
	公益財団法人国際高等研究所長	長尾　真
	公益財団法人国際高等研究所副所長	松本　紘
	一般財団法人アジア太平洋研究所所長（大阪大学名誉教授）	宮原　秀夫
	公益財団法人地球環境戦略研究機関関西研究ｾﾝﾀｰ所長（大阪大学名誉教授）	鈴木　胖
<委　員>学識経験者	学校法人立命館　立命館大学総合科学技術研究機構上席研究員	村橋　正武
	京都府公立大学法人京都府立大学名誉教授（京都府特別参与）	竹葉　剛
	学校法人同志社　同志社大学教授	渡辺　好章
<委　員>国	国土交通省大臣官房審議官	田村　計
	内閣府政策統括官（科学技術･イノベーション担当）付政策企画調査官	守屋　直文
	総務省情報通信国際戦略局技術政策課長	野崎　雅稔
	文部科学省大臣官房政策課長	板倉　周一郎
	経済産業省経済産業政策局地域経済産業グループ立地環境整備課長	鎌田　篤
	総務省近畿総合通信局長	奥　英之
	経済産業省近畿経済産業局長	関　総一郎
	国土交通省近畿運輸局長	土屋　知省
	国土交通省近畿地方整備局長	森　昌文
<委　員>立地機関	株式会社国際電気通信基礎技術研究所代表取締役社長	平田　康夫
	公益財団法人国際高等研究所理事長	立石　義雄
	公益財団法人地球環境産業技術研究機構理事･研究所長	山地　憲治
	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構関西光科学研究所長	内海　渉
	国立研究開発法人情報通信研究機構ユニバーサルコミュニケーション研究所長	木俵　豊
	国立国会図書館関西館長	片山　信子
	国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学長	小笠原　直毅
	学校法人同志社　同志社大学長	村田　晃嗣
	学校法人同志社　同志社女子大学長	加賀　裕郎
	学校法人大阪電気通信大学長	橘　邦英
	学校法人関西外国語大学長	谷本　義高
	学校法人大阪国際学園　大阪国際大学長	宮本　郁夫
	国立大学法人奈良女子大学長	今岡　春樹
	国立大学法人京都大学大学院農学研究科長･農学部長	宮川　恒
	国立大学法人大阪大学理事･副学長	馬場　章夫
	京都府公立大学法人京都府立大学長	築山　崇
	独立行政法人国立文化財機構理事　奈良文化財研究所長	松村　恵司
	けいはんな記念公園管理事務所長	山口　隆史
	日本電信電話株式会社NTTコミュニケーション科学基礎研究所長	前田　英作
	パナソニック株式会社先端研究本部材料研究室長	藤井　映志
	大和ハウス工業株式会社執行役員総合技術研究所長	有吉　善則
	オムロン株式会社執行役員常務CTO兼技術･知財本部長	宮田　喜一郎
	京セラ株式会社中央研究所長	神山　一司
	株式会社島津製作所執行役員基盤技術研究所長	北岡　光夫
	サントリーホールディングス株式会社執行役員生産研究企画部長	上田　光能
<委　員>経済団体	公益社団法人関西経済連合会専務理事	松村　孝夫
	京都商工会議所専務理事	奥原　恒興
	大阪商工会議所専務理事	宮城　勉
	奈良商工会議所専務理事	峯川　郁朗
<委　員>府県市町	京都府副知事	山内　修一
	大阪府副知事	植田　浩
	奈良県副知事	松谷　幸和
	京田辺市長	石井　明三
	木津川市長	河井　規子
	精華町長	木村　要
	枚方市長	竹内　修
	四條畷市長	土井　一憲
	交野市長	黒田　実
	奈良市長	仲川　げん
	生駒市長	小紫　雅史
<委　員>	独立行政法人都市再生機構理事･西日本支社長	西村　志郎
<委　員>中核機関	株式会社けいはんな代表取締役社長	木村　治久
<委　員>連携機関	ならやま研究パーク協議会長	古海　賢二
	関西文化学術研究都市高山地区立地施設等連絡協議会長	中村　茂一
	津田サイエンスヒルズまちづくり協議会長	佐々木　啓益
	けいはんな学研都市精華地区まちづくり協議会長	井上　茂
	関西文化学術研究都市精華･西木津地区研究機関協議会長	阪田　正和
	木津川市立地企業等懇談会幹事	江見　和明

（敬称略、順不同）

けいはんな学研都市の歩み（第1回）

「けいはんな学研都市フェスティバル'94」会場全景（平成6年8月）

けいはんな学研都市の30年以上にわたる歩みを、関係者の談話と年表・写真に基づいて、3回連載で振り返ります。初回は、奥田東・元京都大総長の奥田懇（関西学術研究都市調査懇談会）発足からファースト・ステージまでを回顧します。

（肩書などは当時）

提言・構想期～ファースト・ステージまで

1972	S47		ローマクラブが「成長の限界」発表
1973	S48		第1次石油ショック
1978	S53	9月	関西学術研究都市調査懇談会（座長　奥田東・元京都大総長、通称:奥田懇）が発足
1979	S54		第2次石油ショック
1983	S58	8月	関西文化学術研究都市建設推進協議会　設立
1984	S59	8月	国際高等研究所　設立
1986	S61	6月	関西文化学術研究都市推進機構　設立。　理事長に宇野收氏
		9月	関西文化学術研究都市建設促進議員連盟　発足
1987	S62	6月	関西文化学術研究都市建設促進法　公布・施行
		6月	関西文化学術研究都市推進機構　理事長に小林庄一郎氏
		10月	「関西文化学術研究都市建設基本方針」決定（総理府告示第24号）
1989	H 1	5月	国際電気通信基礎技術研究所（ATR）開所
		8月	㈱けいはんな　設立
1990	H 2		バブル崩壊始まる
1991	H 3	10月	奈良先端科学技術大学院大学　開学
1993	H 5	4月	文化学術研究交流施設「けいはんなプラザ」　開設
		10月	国際高等研究所　開所
		11月	地球環境産業技術研究機構（RITE）　松下電器産業中央研究所　竣工
1994	H 6	6月	関西文化学術研究都市推進機構　理事長に稲盛和夫氏
		9月	けいはんな学研都市フェスティバル'94(都市びらき) 開催
		9月	関西国際空港　開港
		10月	セカンド・ステージ・プラン推進委員会が初会合
1995	H 7	1月	阪神・淡路大震災
		4月	関西文化学術研究都市記念公園（けいはんな記念公園）　開園
		6月	関西文化学術研究都市推進機構　理事長に立石孝雄氏
		10月	高山サイエンスフェスティバル　開催（第1回）
1996	H 8	2月	関西文化学術研究都市推進機構　理事長に西八條實氏

建設中のけいはんなプラザ（平成4年12月）

国際高等研究所の起工式（平成4年5月12日）
左から宇野收氏、河野卓男氏、岡本道雄氏、奥田東氏
（「国際高等研究所 15年のあゆみ」から）

「無私の人」奥田東先生　「名参謀」河野卓男氏

～国際高等研究所　元事務局次長　草木良子氏～

国際高等研究所の発足は、京都商工会議所内に設立準備室が設けられた昭和59年2月にさかのぼります。私は関西経済連合会や関西経済同友会で働いた経験があり、塚本幸一･京商会頭からお話を頂戴して職員に採用されたのが、奥田東先生との出会いでした。先生は80歳を迎えられる前で、茫洋（ぼうよう）とした風貌の、私利私欲のない無私の人でした。文部省の設立認可が異例の早さで8月に下り、財団法人の初代理事長に先生が、初代専務理事に河野卓男さんが就任されました。

河野さんは、京都経済同友会の代表幹事を務めた企業経営者です。京都大総長を退官後、ローマクラブの報告書に触発され、危機感を抱かれた先生が、河野さんに相談を持ち掛けたのが、京阪奈丘陵に学研都市を建設する構想の発端と聞いています。河野さんが日向方齋氏や東西の主要な財界人、京都府の林田悠紀夫知事、河本嘉久蔵･国土庁長官らとの連絡役になり、奥田懇の提言取りまとめと構想推進にご苦労される先生を、名参謀として支えられました。関経連の宇野收会長とは旧制三高の同窓生で、電話一本で話が通じたんです。口下手だった先生は、ご本人には直接言わなくても、私には「河野氏には感謝しているんだ」と、よく話しておられたのを覚えています。

先生の後を継いで京都大総長を務めた岡本道雄先生を初代所長に、国際高等研は平成5年10月、学研都市の中核施設として開所しました。内外のいろんな学者さんに議論いただいて、人類の幸福に寄与する新しい学問の芽を生み出すことが、岡本先生、奥田先生、河野さんの共通の願いでした。奥田先生の夢は、学研都市の12クラスターが、それぞれに特色を持った街に育つことでした。世界に開かれた未来都市には、外国の子どもたちが学ぶ国際学校と教会が必要とも話しておられました。米寿のお祝い文集の編集をお手伝いした際、多くの人に親しまれる交友関係の広さに改めて驚きました。写真は、先生が93歳で逝去される前年の平成10年、けいはんなプラザにある関西文化学術研究都市碑文の横で撮った一枚です。私は事務局次長を最後に平成18年に退職しましたが、先生と親子のように接することができた十数年間を、幸せに思っています。

けいはんなプラザ 碑文前で

「都市びらき」と「セカンド･ステージ･プラン」に尽力

～関西文化学術研究都市推進機構　元常務理事　髙津幹男氏（78）～

私は住宅･都市整備公団関西支社の学研都市整備局長から出向し、推進機構では3代目の常務理事として、平成5年4月に着任しました。当時会長は宇野收氏、理事長は小林庄一郎氏でした。JR京都駅前の事務所から、平成5年4月、完成間もないけいはんなプラザに引っ越しました。当時、精華･西木津地区で開所していた研究施設は、国際電気通信基礎技術研究所（ATR）と島津製作所、NTTの研究所くらい。夜間は暗くて、けいはんなプラザの日時計のレーザー光線が鮮やかでした。

中核施設整備の進捗に併せ、平成6年秋、精華･西木津地区を主会場に、都市びらきの「けいはんな学研都市フェスティバル'94」を開催し、事業費7億円の約半分を民間企業に負担をお願いし、募金活動を開始。関西経済連合会にご協力いただき、目標を上回る額が集まりました。9月23日からの59日間、リレー方式でイベントを繰り広げて、学研都市を内外にアピール。「全国都市緑化きょうとフェア」と併せ、多彩なイベントで賑わいました。関経連会長は川上哲郎氏、京都府知事は荒巻禎一氏の時期です。

フェスティバル期間中の10月に国土庁大都市圏整備局長の諮問を受けて、次の10年間の整備目標となる「セカンド･ステージ･プラン」の策定に着手し、国際高等研究所の岡本道雄理事長を委員長とする推進委員会と、大阪大学の大久保昌一名誉教授が座長を務める調査委員会が連携して検討を重ね、平成8年4月に答申しました。学研都市の将来像として答申に掲げたのが、「新文化首都の創設」です。岡本委員長の熱い思いと、宇野收･関西文化学術研究都市建設推進協議会長の強い賛同があったのを思い出します。私は2期4年で常務理事を退任しましたが、その間、小林庄一郎氏、稲盛和夫氏、立石孝雄氏、西八條實氏と4人の理事長に仕えました。退任後、学研都市で働いた仲間に呼び掛けて、平成10年に「けいはんな都市クラブ」を結成し、都市びらきの記念式典が行われた10月には、毎年メンバーが集まって旧交を温め、新しいステージを迎える学研都市のよき応援団として、活動を続けています。

推進機構理事会にて、常務理事退任のあいさつ

Who's Who?

Number 10

地域の憩い 交流 活性化の拠点に

京都府精華町に立地し、学研都市のオアシスとして親しまれるけいはんな記念公園（京都府立関西文化学術研究都市記念公園）は、今年4月で開園20周年を迎えました。公園の指定管理者は、京都の庭師の伝統を受け継ぐ植彌加藤造園株式会社（京都市）です。山口隆史（やまぐち・たかし=56）所長をリーダーとする管理事務所の10人のスタッフが、水と緑を実感できる庭園と自然環境の整備や、四季折々の催事の企画運営に日々努めておられます。

けいはんな記念公園 管理事務所所長
山口　隆史 氏

Profile

1981年　千葉大学 園芸学部 造園学科 卒
1983年　千葉大学大学院 園芸学研究科
造園学専攻コース修士課程修了
株式会社大塚造園設計事務所
（現 株式会社ヘッズ）入社
2006年　けいはんな記念公園管理事務所 副所長
2007年　所長
2009年　同（植彌加藤造園株式会社に移籍）
技術士（建設部門） 一級造園施工管理技士
公園管理運営士

「緑の街づくり」志して造園学ぶ

京都府福知山市で育ちました。周囲は里山と田んぼ。家族とよく山菜摘みやホタル捕りに出かけたのが、楽しい思い出です。自宅に届く家庭園芸のカタログを見て、小学生の頃から花に関心があったんです。府立福知山高校に進み、園芸学部がある千葉大学を志望しました。

当初は園芸学科を受験するつもりでしたが、公害が深刻な社会問題化した時代です。花や緑を生業（なりわい）にするなら、少しでも社会に役立ちたい。そう考えました。

園芸学部の造園学科の教授が、受験雑誌に「緑の街づくりで、世の中に役立つことを学ぶ研究室です」と紹介しておられたのを読み、造園学科に志望変更です。入学後の6年間は、オープン・スペースの緑の都市計画を学び、庭園や公園の歴史も一生懸命に勉強しました。

助教授のご紹介で1983年、大阪市の大塚造園設計事務所（89年　株式会社ヘッズに社名変更）に採用いただきました。千里や泉北のニュータウンにも携わった実力派の造園コンサル会社です。私は入社3、4年目の20歳代後半から、けいはんな記念公園に関与しているんです。

昭和の終わりの3年間、社内チームのリーダーとして開発前の京阪奈丘陵を歩き回り、学研都市全体の公園緑地の配置計画などに関する調査を実施します。文化、自然、交流をテーマに90年に策定した公園基本計画の報告書も、平面図を除いた文章の大半は私が書いています。

会社の指示で、学研都市からは離れて別のプロジェクトに異動。公園の建設工事は93年から始まりますが、芝生広場と小川が流れる谷あいの基本設計をヘッズが受け持つことになり、基本計画に関わった私が呼び出されて、デザインチームと大議論になるんです。

文化を冠にする街の基幹公園です。「日本の文化を空間で表すなら、歴史的風土景観でしょう。西欧風の平らな広場ではなく、棚田やせせらぎなどの懐かしい里の風景を再現すべき」。こんこんと説いて、採用されました。

公園の供用開始は95年ですが、2003年の法律改正で都市公園に指定管理者制度が導入され、民間参入が可能になりました。この公園も指定管理になると分かり、取締役だった私は「公園管理のノウハウを取得するチャンス。挑戦しない手はない」と主張しました。当時はバブル崩壊後の安定成長期で、造園業界もストックからフローへの変革期と言われていたんです。

植彌加藤造園は1848（嘉永元）年から南禅寺の庭師を務める造園の職人集団です。8代目社長の加藤友規氏は、同じ千葉大学の出身でもあり、お声掛けしたところ意気投合。2社の共同企業体方式による管理運営が、06年からスタートしたという経緯です。

ヘッズは09年に指定管理者から降り、私は植彌加藤造園に移籍しました。若手を育てようという強い意志を持った会社です。最近では福寿園京都本店の「天空の庭」や、星野リゾートの「星のや京都」の庭も手掛けています。

◇多彩なイベント開催　公園利用者3倍に◇

＜けいはんな記念公園の面積は約24.1ヘクタール。甲子園球場で6個分という広大さだ。芝生広場などの無料区域と、回遊式日本庭園「水景園」や里山を保全した「芽ぶきの森」などの有料区域に大別される（図　参照）＞

指定管理者になって最初に行ったのが、芽ぶきの森の里山管理です。「美しい花の咲く森にしよう」と、徹底的に職員で話し合いました。放置されて、うっそうと茂っていた笹や常緑樹を刈り払い、日陰をなくして森を明るくすると、1、2年で一斉に花が咲き始めました。

お庭では、パンジーなどの洋花を日本の花に入れ替え、彼岸花の球根を大量に植え、稲作や果樹園に挑戦して、当初のコンセプトだった里の風景のデザインに戻したんです。森の中を散策する小道や、池の水辺の周遊路も整備しました。

指定管理は、経費の縮減とサービスの向上を目的にした制度です。来てよかったね、と喜んでいただく接客サービスの上に、公園のイベント（写真　参照）を乗せていく訳ですが、昨年の開催は約190回に上っています。

一番大きいのが、毎年11月に芝生広場で行われる精華町主催の「せいか祭り」。ほかにも、精華町商工会の「せいか夏祭り大盆踊り大会」や、今年で6年目になりましたが、山城青年会議所の全国竹水鉄砲合戦大会「やましろの国いっき祭り」を、芝生広場で7月に行っています。

四季折々の文化型イベントを企画し、水景園などを会場に開催しています。5、6月のホタル観賞会、中秋の名月の「観月の夕べ」、紅葉谷のライトアップ、日本庭園のお茶席などが恒例ですが、七夕のほしまつり、重陽の節句の花遊びといった五節句の行事シリーズと、ジャズコンサートなどの音楽会やアート展を随時開催しています。

森遊び、星空観察などの自然体験型イベントが、子どもたちに好評です。自然は面白い、楽しいねと思ってくれる子どもの裾野が広がればと、期待しています。

参加料を別途いただくイベントもありますが、収益で球根を購入したりイベントの開催数を増やしたりして、公園に還元しています。公園利用者は、指定管理を開始する前の年間約20万人が、6年目の11年に初めて60万人台を超えました。昨年は約63万人に達しています。

◇地域との「良き関係」を　職業体験などに協力◇

＜「美しい景観演出」や「魅力的なサービス提供」と併せて、「広報の充実」や「地域とのより良い関係」も、公園運営の目標という＞

イベント案内の「ニュースレター」約4万部を、2か月に1回、地域の新聞に折り込んでいます。印刷だけは外注していますが、お金を使わないよう、デザインは職員の自作です。A4版1枚の「こどもレター」も3か月に1回、精華町と木津川市の全小学校に配布。児童一人に1枚が渡っています。これは効果がありました。

4月にホームページをリニューアルしました。映像と音響で見どころを紹介するスライドショーを、一度ご覧になってください。フェイスブックやツイッターを活用して、いろんな情報をリアルタイムでお伝えしています。

地域の活性化も、公園の役割のひとつです。精華町は商工会を中心に、おいしいスイーツを軸とした街づくりを始めておられます。4月の開園20周年記念式典の会場で、特大サイズのケーキカットや試食会を実施しました。利用者のほぼ半数は奈良県や大阪府からなので、地元PRのお手伝いになれば。そんなシンプルな理由です。

式典では、花壇の手入れなどで長年協力いただいた登録ボランティアさん約80人に、感謝状を贈りました。公園の周辺街路を早朝、清掃しておられる無名のボランティアさんも大勢おられます。

相楽(さがなか)木綿伝承館は、南山城地方の綿づくりの風土と歴史を伝え、機織りや糸紡ぎの伝統技術を復活させようという施設です。有志グループの活動の場だった旧・私のしごと館が廃止になり、文化をテーマに地域活性化に協力できればと、水景園の観月楼を提供しました。少ない月でも2、300人が、伝承館を訪ねて来園されています。

里山の景観づくりや園芸の職業体験で地元の中学校の生徒さんを受け入れたり、「ホタルの一生」の出前授業をしたり、自然観察会などの環境学習会の講師役で、公園スタッフが各地に出向いています。学研都市の研究者が参加して、けいはんなプラザで2月に開かれた「科学のまちの子どもたち　科学体験フェスティバル」でも、スタッフが生態系観察の意義や面白さを伝えました。

公園が立地する学研都市は研究機関の進出が増え、今後も成熟していくでしょうが、人が育つ学研都市になってほしいと思っているんです。小川でメダカを捕まえたり、ホタルや蝶を追いかけたのが、私の大切な原体験でした。そうした体験を子ども時代に培って、大人になった時に、ここで働き、ここで子育てし、この地域で文化を育てたいと思えるように。学研都市で育ったことが、誇りになる。そんな街になるよう、期待しています。

けいはんな記念公園インフォメーション

水景園利用案内

開園時間	午前9時ー午後5時
一般入園料	200円
小・中学生入園料	100円

＊広場・谷あいは無料　＊詳細は公園HPをご覧ください

問 公園管理事務所 0774-93-1200

紅葉ライトアップ

9/26 観月の夕べ

10/12 青空バル

11/15 せいか祭り

Topics 1

関西文化学術研究都市建設推進に向けた要望活動

関西文化学術研究都市建設推進協議会（会長:森詳介関西経済連合会会長）では、政府の予算編成において、けいはんな学研都市の建設促進や産業振興を求め、毎年、国に対し要望活動を行っています。

このたび、7月9日（木）に、森会長を筆頭とする代表委員が、関係府省庁等を訪問のうえ要望書を手渡し、新たなステージに向けた都市運営の計画策定や予算の重点的配分、国家計画への本都市の位置付けの明確化等を求め意見交換を行いました。（要望事項の要点は以下の通り）

関西文化学術研究都市建設推進に向けて　<<重点要望事項　平成27年7月>>

関西文化学術研究都市建設促進法に基づく国家プロジェクトとして、本都市の持続的な発展を推進するために、次の4項目の要望をいたします。

1.本都市への学術・研究機関・企業集積実績を生かした我が国の競争力強化につながる施策の実施

①新たなステージにおける本都市のビジョン、推進戦略の策定

本都市の30年に亘る多様な分野の集積を最大限活用できるよう、「国家の知的創造拠点」と位置付け、新たなステージにおけるあり方（ビジョンおよび戦略）の策定に向け、府省の枠を超えた連携により取り組んでいただくこと

②「新たな国土形成計画」策定における本都市の位置付けについて

「新たな国土形成計画」の中で、本都市を「国家の知的創造拠点」として位置付けるとともに、ナレッジリンク形成に向けた支援

③「第5期科学技術基本計画」への本都市の位置付けについて

「第5期科学技術基本計画」の中で、本都市を科学技術イノベーション推進に向け「国家の知的創造拠点」と位置付け、機能強化のための支援

④本都市の研究成果を活用した府省横断的なイノベーション施策の実施

総合科学技術・イノベーション会議において府省横断的に進められる科学技術政策の実施にあたっては、本都市が有する様々な先端技術を活用いただくこと

2.都市基盤整備の促進

道路ならびに鉄道の整備等についての配慮

- 学研都市連絡道路（国道163号）、木津中央地区アクセス道路、京奈和自動車道、新名神高速道路、淀川左岸線及びその延伸部の整備推進
- 近鉄けいはんな線の延伸、JR奈良線の複線化、リニア中央新幹線の全線同時開業、関西国際空港へのアクセス改善に向けた支援

3.新産業創出・産業集積につながるプロジェクトの推進

①新産業創出や雇用創出等に向けた共同プロジェクトの創出・推進活動への支援

本都市域における新産業創出をさらに強化するための、ライフ、アグリ、エネルギー等の分野における共同プロジェクトの創出や推進に対する、補助金の採択等の支援

②持続可能なモデル都市づくりの推進

「けいはんなe²（イイ）未来創造プラン」に基づくエネルギー自給型の未来都市モデルづくりに向けた、実証事業の成果を最大限活かせる新たな支援制度の創設

③疾病予防、生活の質向上を目指す「ヘルスケアシステム開発」に係る地域イノベーション戦略支援プログラムおよび事業化補助金等の創設・拡充・強化

ヘルスケアシステムの開発およびその地域実装を進めるための、地域イノベーション戦略支援プログラムおよび事業化促進に対する補助金の新規創設ならびに拡大

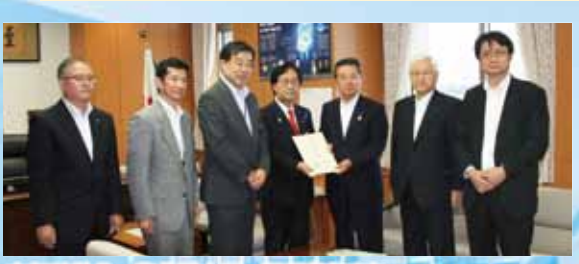
④多言語音声翻訳技術の利活用における、関西でのシステム開発およびフィールド検証に向けた支援

グローバルコミュニケーション計画における多言語音声翻訳技術の社会実装を目指した、関西発のユーザーインターフェース開発とパイロット的フィールド実験の実施に向けた支援

4.学術・研究開発機能の整備・活用

学術・研究開発施設の整備・拡充に向けた財源拡充等

- 日本原子力研究開発機構　関西光科学研究所　（JAEA）
  がん治療装置の小型化、低価格化に資する高強度レーザー実証等への研究推進支援
- 情報通信研究機構　ユニバーサルコミュニケーション研究所（NICT）
  ユニバーサルコミュニケーション技術研究開発促進等に対する支援
- 国際電気通信基礎技術研究所（ATR）
  「安全・安心な社会」実現のためのロボット、脳情報解析、無線技術等研究開発への支援
- 地球環境産業技術研究機構（RITE）
  バイオリファイナリー技術等革新的なCO_2分離回収貯留技術・水素ガス利用技術の研究開発への支援
- 奈良先端科学技術大学院大学（NAIST）　競争的資金の制度拡充
- 京都大学大学院農学研究科　附属農場の稼働（平成28年4月）に向けた支援
- 国立国会図書館　関西館（NDL）　書庫増設に関する第二期施設整備
- けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）　共同研究・事業化への支援
  対象分野（スマートライフ・スマートエネルギー&ICT・スマートアグリ・スマートカルチャー&エデュケーション）


文部科学省　藤井副大臣へ要望書を手交

内閣府　山口科学技術政策担当大臣へ要望書を手交

国土交通省　北川副大臣へ要望書を手交

総務省　高市大臣へ要望書を手交

総務省　高市大臣へ要望内容を説明

建設推進協議会代表委員（今回の参加者）

森　　詳介（関西経済連合会会長）
山田　啓二（京都府知事）
植田　　浩（大阪府副知事）
山本　　尚（奈良県地域振興部次長）
峯川　郁朗（奈良商工会議所専務理事）
柏原　康夫（関西文化学術研究都市推進機構理事長）

Topics 2

第13回「けいはんなヘルスケア・イノベーション研究会」を開催

井上潔氏（㈱アーク・イノベーション 社長）が、ヘルスケア事業分野のグローバル最新動向と今後の周辺産業への拡がりについて講演

65歳以上の高齢者が総人口の4分の1を超え、我が国の高齢化がますます加速する中にあって、ヘルスケア関連の研究開発や事業化の動きがグローバルに一段と活発になってきています。そのような背景を踏まえ、6月5日（金）開催の第13回「けいはんなヘルスケア・イノベーション研究会」は、グローバルな情報収集に基づく研究開発型製造業への戦略コンサルティングで名高い、㈱アーク・イノベーションの代表取締役社長の井上潔氏を講師に招き、“医療・ヘルスケアとICTの本格融合の時代～最新動向および今後の変革の方向性について～”と題して講演をいただきました。講演の中で井上氏は、政府の報酬制度改定などで、医療・介護の産業構造が在宅化にシフトしていること、ウェアラブルデバイスからのバイタルデータや健診・人間ドックなどのデータの組み合わせと解析で個人に最適な健康ソリューションを提供していく方向に進み始めていることを上げ、そのために必要なデバイス技術ニーズと、それに関連した注目すべき研究開発動向を紹介されました。更には、これらの動きが住宅・自動車・保険など周辺産業にも拡がりを見せていることを紹介し、今後想定されるシナリオの予測やビジネスモデル分析にも話を展開されました。

今回の研究会は、グローバルな最新動向と今後の拡がりが聴ける期待もあって、企業関係者を中心に80名強の参加者があり、研究会終了後の交流会でも多くの方々が井上氏を囲んで熱心な質問をされていました。

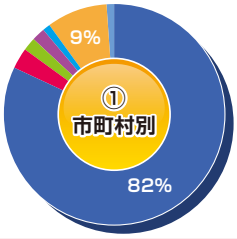
Topics 3

「幸齢社会」の実現を目指し、第3回「健康キャラバン」を実施

当機構は、6月28日（日）、ガーデンモール木津川において、国立大学法人奈良女子大学及び木津川市役所、相楽薬剤師会とともに、気軽に参加できる簡易な検査装置による健康度測定イベント第3回「健康キャラバン」を実施しました。今回は、相楽薬剤師会の協力を得て、糖尿病の診断基準となるヘモグロビンA1c計を初めて導入。前回に続いて地域住民の健康増進モチベーションを支援する2種のICT機器利用ヘルスケアシステムのIDを歩数計とともに配布しました。

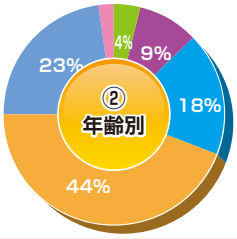
相楽薬剤師会による
ヘモグロビンA1c測定風景

当日は過去最高の115名（前回比1名増）の参加を得、このうち65名（57%）はリピーター。ヘモグロビンA1c測定は準備した50人分を早々に終えるほどの人気で、合わせて木津川市が6月から9月に実施する特定健診の受診勧奨及び簡易認知症テストも行われました。ICT機器利用ヘルスケアシステムは用意したIDすべてが申し込まれ、地域住民の健康意識の高さを示す結果となりました。



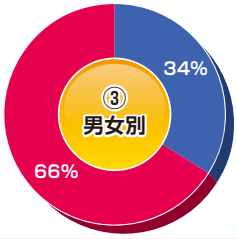
前回比、木津川市民が4ポイント増加した。

木津川市　京田辺市　奈良市　精華町　京都市　生駒町　宇治市



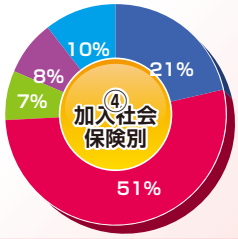
前回比、50代が8ポイント、70代が7ポイント増加した。

10代　40代　70代　20代　50代　80代以上　30代　60代



前回比、女性が6ポイント増加した。

男性　女性



前回比、国保が7ポイント減少し、後期高齢者が6ポイント増加した。

企業健保　共済健保　国民健保　後期高齢者　協会健保　その他

Topics 4

超高齢社会における生活支援に向けた地域産業創出を考える研究会

第1回講演会を開催　<3ヶ年計画をスタート　奈良県事業>

2015年7月29日(水)13:15−17:00奈良学園大学登美ケ丘キャンパス2号館において、奈良県補助金事業の「超高齢社会における生活支援に向けた産業創出を考える研究会」第1回講演会を開催しました。

奈良県立医科大学　理事長･学長　細井裕司様からは、超高齢社会と地方産業創生に向けた医学を基礎としたまちづくりのお話があり、地域活性化に向けての民間コンソーシアム形成取組みのお話がありました。

高齢者支援現場からのニーズ紹介では、奈良県介護支援協会　会長　林芳繁様より、奈良県と地域包括ケアシステムによるまちづくり取組みのお話と共に、介護者の負担改善が必要との判断から、数年前より取り組まれている介護ロボット開発のお話がありました。引き続き、介護ロボット共同開発の奈良工業高等専門学校産学交流室室長　早川恭弘様より、背負い式介護移乗ロボット「ひびき」の開発に関するお話がありました。

研究機関からのシーズ紹介では、ATR知能ロボティクス研究所エージェントインタラクションデザイン室室長塩見昌裕様から、超高齢社会に向けた日常生活を支援する知能ロボットシステム開発のお話がありました。

最後に、奈良学園大学保健医療学部学部長で高齢社会研究会運営委員長の守本とも子様から、研究会はマッチングによる産業創出を支援することを目的とした3ヶ年活動であることなどの説明がありました。

本研究会の目的である地域産業創出に向け、奈良学園大学の協力を得て、第1回講演会では20社の会員登録と、高齢社会関係者を多く含む84名のご出席をいただき、3ヶ年計画の第一歩を踏み出しました。

Topics 5

フォーラム報告

第2回けいはんなEVフォーラム「自動運転」

平成27年7月10日、最先端の技術「自動運転」をテーマにして、第2回けいはんなEVフォーラムを開催いたしました。当日は、「けいはんなEV人材育成コンソーシアム」企業をはじめ、研究機関、製造業、運輸業などの自動運転に関心のある約90名の方々にお集まりいただき、大変盛況のうちに終了いたしました。

最初の講演では、株式会社ZMP　代表取締役社長　谷口恒氏をお迎えし、『ひろがる自動運転技術』と題して、ロボットタクシーを走らせることを目指した、最先端のセンシングと自動運転の可能性について夢のある未来の自動車について、お話しいただきました。

次に、金沢大学　新学術創成研究機構　准教授　菅沼直樹氏により、『自律型自動運転自動車の開発』について、石川県珠洲市における公道走行実験を中心に世界の技術動向とともに最先端の研究結果について紹介いただきました。

その後、講演いただいた先生方とともに、情報交換会を催しましたが、この分野に熱心な聴衆のほとんどが参加され、懇親や活発な意見交換がなされ、3時間余りにわたるEVフォーラムは閉会いたしました。

※本事業は経済産業省平成26年度補正予算地域企業人材共同育成事業を受託し実施したものです。

注目!企業インタビュー

株式会社 プロキダイ

代表取締役 柴田　和明 氏

〒619-0237 京都府相楽郡精華町光台1丁目7 けいはんなプラザラボ棟6F
TEL&FAX:0774-66-5224　URL: http://www.prokidai.co.jp
E-mail: shibata@prokidai.co.jp

interview

今回は、「こんなものがほしい」「これは面白い」との自らの経験から、生体電極を違和感なく体に装着するパッドの商品開発をされた株式会社プロキダイの柴田代表取締役にお話を伺いました。

近年では、健康管理やアスリートのパフォーマンス向上などの目的でハートレートモニタ（心拍計）を装着したいと思う人・装着経験のある人は少なくありません。これまでは胸部にゴムベルトでセンサーを固定するタイプが一般的でしたが、装着性やセンサー感度の問題があり、自身もアスリートである柴田社長は、それを解決するハートレートセンサーパッド・AIRを開発しました。

◆けいはんなで起業したきっかけ

けいはんなプラザの前を通るたびに、こんなところに事務所を構えられたら、お客さんの印象も違うだろうとずっと憧れていました。ベンチャー企業向けのインキュベーター施設や起業支援のしくみがあるのを知らなかったのですが、たまたま、取引先の研究所が近くにあってそちらの社長から話を聞き、（株）けいはんなさんに連絡しました。最初は僕らから見るとちょっと高嶺の花というか、申し込んでもダメかなと二の足を踏んでしまうという印象でした。でも事業内容を説明したら担当の方から熱心に勧誘していただき、やらずにあきらめるのはダメだと言われ、申込書の書き方から教えていただき、それで今回、入居に至りました。

◆元々は鈴鹿市でレーシングカーを製作していた

もともとはメーカーの企画車両といった、レーシングカー自体を製作したり、エンジンのマッピングを作ったり、ドライバーのサポートをしていました。たとえばSuper GT（Super GTレース）って、レース距離が半端じゃないんです。お尻が痛くならないようなシートや、ドライバーの膝や肘の保護材に医療用の床ずれ防止用のゲルを利用した商品など、レーシングカーのドライバーの環境改善をはかる現場で、医療用素材のメーカーさんと共同で異業種の素材を活用するという形の商品開発をするようになりました。

◆ほしいものがない、それなら自分で納得いくものを作ってみよう

僕自身、マラソンや自転車競技を長年やってまして、ベルトタイプのものを利用していたんですが、実際大会のときにつけて42.195km走るかって言ったら、走らないんですよ。途中で落ちてしまったり、こすれて痛くなったり。それを、動かないようにしようと思うと、ものすごくタイトに縛らないといけないんですが、そうするとやっぱり苦しくなってしまって、こっちが気になって走ることに集中できない。それで最初はいろいろ代替品を探したけれど見つからない。それ

従来使用されているベルトタイプ

ハートレートセンサーパッド・AIR

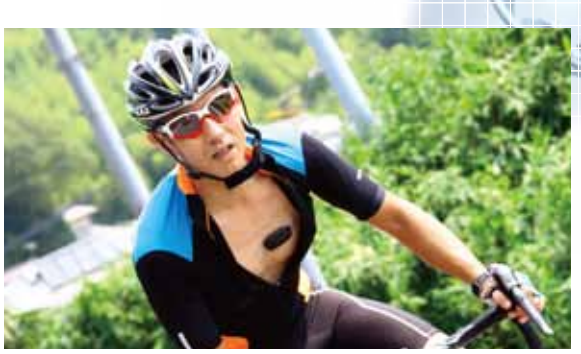
なら自分で納得いくものを作ってみようと思いました。

これまでもいろんな規制がある中でものづくりをやってきて、車のレギュレーションと同じように対策、対策、対策とやってるうちにこの商品に行き着きました。知り合いのプロの競技者に「試しに使ってみてよ」と頼んだら、すごく感触が良かった。誰しも実際のレースの時の心拍データを取りたいのですが、ベルトのものだと集中できないからはずす。練習の時はつけるのに。でもこれにした場合は、途中からつけていることを忘れるので、違和感なくログが取れる。スポーツウォッチやサイクルコンピュータにはGPS機能が付いた商品もあるので自分が走った軌跡が全部見れますし、PCに取り込んだデータを見ながら日々楽しくてたまりませんでした。それでこれまでと全然業種は違うんですが、こういったヘルスケアの分野でチャレンジしたいと思いました。

◆商品の魅力で人のつながりが広がった

当初はうちのような会社が行っても医療用素材のサンプル自体をもらえなかったのですが、飛び込みで企画を説明し、手に取って見てもらいました。すると商品の魅力を感じてもらえたのか「おもしろいから協力させてもらいます」と、人づてに取引関係が広がっていきました。

ハートレートセンサーパッド・AIRの商品構成は、センサーパッド（生体用電極）本体と導電ゲルそれぞれ1対、体とセンサーパッドを固定する専用テープ5枚で1セットです。国内シェア上位2社のハートレートセンサーに対応できるようサイズを設計しています。固定テープは3Mジャパン（株）メディカル部門と、またパッドに使用した導電ゲルはタキロン（株）と共同で、素材選定を行い技術協力もして頂いています。昨年12月には、激しい運動による動きと大量の汗に耐えて、体に常に密着して安定的に心拍を測定できる生体電極を独自の技術で開発し、特許を申請しました。



◆災害現場などの後方支援ツールとして

最近はやりの腕時計型のウェアラブル機器はLEDの光で静脈を照らして画像認識して脈のデータをとるしくみですが、それだとせいぜい1時間ほどしかバッテリーが持たないのです。心電型の心拍センサーは、消費電力も少なく長時間使用が可能なため、ロギング自体も長時間行えます。センサーからの情報はBluetoothか、NT規格の通信網を使ってレシーバーで受信します。Wi-Fiを使って他のデバイスでペアリングもできるので、第三者がモニタリングすることも可能です。

将来的には災害現場で使いたいと思っています。消防士や現場で活動する隊員の方に装着してもらって、安全確保や状況確認に役立てたい。呼吸のデータも取れるようにセンサーを改良すれば、現場でどのような状況におかれているのかを確認し、応援を出すかどうかを後方で判断できます。あと、モータースポーツの様なアクシデントを伴うイベントのときにも、クラッシュしたドライバーの状態を確認して、ドクターヘリを呼ぶべきかどうかを瞬時に救護スタッフが判断できます。

センサー装着のストレスがないので、トレッキングや登山、高齢者の運動などのスポーツや、また胎児心拍の測定などの医療現場で、可能性はまだまだ広がると思っています。

けいはんな体感フェア2015
@ナレッジキャピタルにて出展展示

株式会社プロキダイがこの秋、“けいはんな”体感フェア2015@ナレッジキャピタルにて出展展示を行います。
体感フェアについてはP17をご覧ください。

四條畷伝統の文化

四條畷市は、市のほぼ中央部に生駒山から続く飯盛山系がそびえており、東の田原盆地と西の平野地域に分かれます。市内には平安時代の延喜式神名帳に記載される式内社が忍陵神社・國中神社・御机神社と三社鎮座しており、その関係もあってか古くから伝わる伝統文化が多く残されています。ここでは市内の各地域で行われている伝統文化について紹介します。

Ⅰ　正月の砂絵（田原地域）

市内下田原地区の下田原天満宮では、毎年正月に境内で赤い土を使って砂絵が描かれます。下田原天満宮は、菅原道真を祭神としており、大阪と奈良を結ぶ古い街道の一つである清滝街道の沿いにあります。いつ頃に創建されたのかは分かりませんが、江戸時代初期ごろではないかとされています。

下田原天満宮で描かれる砂絵は、年によって描かれるものが違いますが、新年を祝って太陽や月、一斗升のほか、米俵や、あるいは宝船、干支の動物など縁起のいいものが、赤い土を使って境内の白っぽい土をキャンバスに描かれるもので、その年の豊作と幸福を願うものです。以前はこの神社だけではなく、各家の庭先などでも同じような砂絵が描かれていましたが、近年では見られることが少なくなりました。平成17年の時点では、すでに正月の砂絵がみられたのは下田原天満宮だけだったと記録されています。下田原天満宮で描かれる砂絵は、地域に伝わる伝統の行事をいまに伝える貴重なものです。

Ⅱ　湯立神事（平野地域）

市内清滝地区に鎮座する國中神社では、夏祭りと秋祭りの際に、「湯立神事」が行われています。國中神社は、927年に完成した『延喜式』の「神名帳」にも記載される古くからの神社で、平安時代から一度も他所に移転することなく鎮座を続けていると伝わります。神社の境内には江戸時代につくられた狛犬や鳥居、手水鉢などの石造物も多くあり、神社の歴史の古さを物語っています。境内には手水鉢の後ろに古墳時代の石棺の蓋も建てられています。この付近は清滝古墳群という古墳時代中期から後期（およそ1600～1400年前）にかけて築かれた古墳

正月の砂絵

湯立神事の様子

四條畷市街より、飯盛城跡を望む

群があったところで、近くの古墳から見つかったものが境内に運ばれ、建てられたのでしょう。

この神社では、夏祭り（天神祭）と秋祭り（収穫祭）の2回、湯立神事が行われます。この神事は夜に行われ、社殿前に大釜をすえて湯を沸かし、葉のついた笹の枝を持った巫女がそれを周囲に激しく振り撒くものです。神事の後には「お神楽奉納」が行われます。また、神事が終わった後は使われた笹の葉が参列者に分けられます。

この湯立神事は、古くは問い湯とも呼ばれ、神託を伺うためのものでした。湯立神事と同様の神事は各地でみられ、奈良の春日大社などでも行われていますが、その内容は各地の神社で少しずつ異なっており、それぞれ独自のものが伝えられています。國中神社の湯立神事は、神社の氏子の方々にも支えられ、代々伝えられ続けています。

だんじり（地車）曳行の様子

Ⅲ　だんじり（地車）・蒲団太鼓（市内各地）

四條畷市内では、夏祭りや秋祭りとしてだんじり（地車）や蒲団太鼓などの曳行を行っている地区が多くあります。これらの祭りは江戸時代から続けられているものが多く、だんじり（地車）にも江戸時代に作られたものが含まれており、地元の方々が受け継ぎながら大切に使われています。

近畿地方一円には約900台のだんじり（地車）が現存すると言われていますが、四條畷で見られるだんじり（地車）は、その多くが「北河内讃良型」と言われ、大屋根の高さが5mを超えるものもあり、だんじり（地車）の中でも最大級の大きさと言われています。屋根周りには伝統的な寺社彫刻の流れをくんだ龍や鳳凰・獅子・麒麟などの神獣や鷲の彫物があり、その大きさも大振りで、彫りも深く立体感があります。実際の曳行では大きなだんじり（地車）がだんじり囃子とともにゆっくりと動きます。このように大きなだんじり（地車）が一箇所に集合する姿は勇壮なものです。

平成27年度には、10月18日に市内でだんじり（地車）や蒲団太鼓を保存している団体のうち7団体が集まって、四條畷市立学校給食センターを会場に、「四條畷だんじり蒲団太鼓連合パレード」を計画されています。それ以外の団体でも、秋祭りや夏祭りの際に、だんじり（地車）や蒲団太鼓の曳行を行なっています。

夏祭りで曳行される蒲団太鼓

集合するだんじり（地車）

けいはんなプラザ　イベントカレンダー　一般の皆様へ

10月

けいはんな映画劇場

場　所　けいはんなプラザ　メインホール
料　金　※当日券のみ　一般／1,000円、小・中学生、シニア（60歳以上）／700円、
けいはんなプラザ友の会会員／700円
問合せ　（株）けいはんな 事業部　TEL　0774-95-5115

◆ 駆込み女と駆出し男

江戸時代、離婚を望む女たちが駆込む寺があった。
その門をくぐれば見えてくるのは女と男のさまざまな愛情、まさかの事情。
出演:大泉洋、戸田恵梨香、満島ひかり、樹木希林、堤真一、山﨑努　ほか

日　時　10月 9日（金）10:30～12:53　13:45～16:08　18:30～20:53
10月10日（土）10:30～12:53　13:45～16:08　16:45～19:08

◆ 海街diary

家族を捨てた父が、のこしてくれた家族。
父が死んで、鎌倉の家に、腹違いの妹がやってきました ――。
出演:綾瀬はるか、長澤まさみ、夏帆、広瀬すず、加瀬亮、大竹しのぶ　ほか

日　時　10月30日（金）10:30～12:36　13:30～15:36　18:30～20:36
10月31日（土）10:30～12:36　13:30～15:36　16:15～18:21

けいはんな情報通信フェア 2015

近鉄 学研奈良登美ヶ丘駅・高の原駅より無料シャトルバス運行

けいはんな学研都市の情報通信関連研究機関・大学・企業等が最先端の研究成果を講演や展示などを通じてご紹介する一大イベントです。

日　時　10月29日（木）～31日（土）
場　所　けいはんな学研都市 精華・西木津地区（けいはんなプラザ、NICT、ATR）
料　金　無料　申　込　不要
主　催　けいはんな情報通信フェア2015実行委員会
問合せ　実行委員会事務局（国立研究開発法人情報通信研究機構内）
TEL　0774-98-6900　Web　http://khn-fair.nict.go.jp

基調講演：新井 紀子 氏

■講　演　（けいはんなプラザ会場）

基調講演　10月29日（木）
「なんで私が『東大』に?」
ー大学入試をベンチマークとして取り組む人工知能研究の意義ー
新井 紀子 氏　国立情報学研究所 教授 社会共有知研究センター長

特別講演　10月31日（土）
「ネイマールに学ぶ、身体を動かす脳の仕組み」
ー脳神経系を鍛えて、世界で勝てる日本人を育成するー
内藤 栄一 氏　情報通信研究機構 脳情報通信融合研究センター

講　演　10月30日（金）
「サントリーの特定保健用食品（トクホ）開発について」　ほか

■展　示　（けいはんなプラザ会場・NICT会場）　10月29日（木）～31日（土）

病院での初期診療を対象とした多言語コミュニケーション支援アプリ
空中映像表示&指による操作システム「フローティング・タッチ・ディスプレイ」
隠消現実感　映像中から不要物体をリアルタイムで視覚的に取り除く技術
自律支援型起立歩行アシストロボット
高松塚古墳壁画を楽しむ
ほか 最先端の研究開発成果約40件を展示

■ATRオープンハウス2015　10月29日（木）、30日（金）

■まほろば・けいはんなSSHサイエンスフェスティバル　10月31日（土）

※けいはんなプラザのイベント詳細は、ホームページをご覧下さい! http://www.keihanna-plaza.co.jp

11月

けいはんなプラザ・プチコンサート IN木津川at八木邸

日　時　11月1日(日)　14:00～15:50　(各2ステージ)
場　所　八木邸(木津川市木津内垣外105)
定　員　80人(大きい蔵と小さい蔵の2会場で40人単位の移動交代制)
料　金　無料
申　込　木津川市学研企画課
大きい蔵　出演者:谷崎 加奈(ソプラノ)、桑 早穂子(ピアノ)
曲　目:J.オッフェンバック／オペラ「ホフマン物語」より"オランピアのアリア"ほか
小さい蔵　出演者:小林 真奈美(ヴァイオリン)、西岡 仁美(ピアノ)
曲　目:パラディス／シシリエンヌ、タイス／瞑想曲　ほか
主　催　けいはんな学研都市活性化促進協議会、
けいはんなプラザ・プチコンサート実行委員会
問合せ　木津川市学研企画課　TEL　0774-75-1201

谷崎 加奈

桑 早穂子

小林 真奈美

西岡 仁美

けいはんな情報通信フェア2015

"けいはんな"体感フェア2015

日　時　11月21日(土)～23日(祝)　10:00～18:00
場　所　グランフロント大阪北館ナレッジキャピタル　The Lab.2階アクティブスタジオ
料　金　無料　申　込　不要
出展内容　けいはんな発の技術や取組についての体感型展示。
大人でも子どもでも、最先端の科学を体験し、楽しむことができます!
問合せ　(公財)関西文化学術研究都市推進機構　TEL　0774-95-5105

劇団四季ファミリーミュージカル「人間になりたがった猫」

愛に溢れた心温まる物語がけいはんなプラザに登場!
迫力満点の舞台美術、思わず口ずさんでしまいたくなるような心躍る音楽!
劇団四季オリジナルミュージカルの中でも屈指の人気作を、
ぜひ劇場で確かめてみてください。

日　時　11月23日(月・祝)　16:00開演(15:30開場)
場　所　けいはんなプラザ　メインホール
料　金　全席指定／(前売)大人4,500円、けいはんなプラザ友の会4,300円、
子ども(小学生以下)3,000円　(当日)各種500円アップ
※3歳未満の保護者膝上鑑賞は無料
チケット取扱い　(株)けいはんな、ローソンチケット、イープラス ほか
問合せ　(株)けいはんな事業部　TEL　0774-95-5115

12月

けいはんなフィルハーモニー管弦楽団演奏会

日　時　12月13日(日)　14:00開演(13:30開場)
開催場所　けいはんなプラザ　メインホール
指　揮　粟辻 聡(客演指揮)
演奏曲　フランツ.シュミット／交響曲第1番ホ長調
B.スメタナ／連作交響詩「わが祖国」より「モルダウ」
L.V.ベートーヴェン／「エグモント」序曲 Op.84
料　金　(全席自由)一般1,000円、けいはんなプラザ友の会700円
前売予約および当日券のみ子ども(小学生)500円
※未就学児入場不可
チケット取扱い　(株)けいはんな事業部　TEL　0774-95-5115
問合せ　けいはんなフィルハーモニー管弦楽団
Web　http://www.kpo.jp/　E-mail　info@kpo.jp

団員募集

私たちと一緒に演奏しませんか?
当団では団員を募集しています。

募集パート　ファゴットおよび弦楽器全パート
練習日　原則として毎週月曜 19:00～21:30
集中練習として週末(主に日曜日)に
練習する場合があります。
練習場所　主にけいはんなプラザ内 イベントホール2
(所在地:京都府相楽郡精華町光台1-7)
最寄駅　近鉄 京都線「新祝園駅」、
けいはんな線「学研奈良登美ヶ丘駅」
JR学研都市線「祝園駅」
詳しくは、info@kpo.jp宛
E-Mailでお問い合わせください。

高校生が自主運営する、野菜・草花・茶のマーケット
「城山台ABCマーケット」開催

京都府立木津高等学校のシステム園芸科（農業に関する学科）と情報企画科（商業に関する学科）が協働し、新興住宅街として開発が進められている木津川市の城山台地区において、野菜・草花・茶の農産物を販売する「城山台ABCマーケット」という取り組みが今年度から始まりました。この取り組みは、週に一度のペースで木津川市城址公園（木津川市大字木津小字片山135番地外）で行われ、春と秋にそれぞれ6回ずつ開催されます。

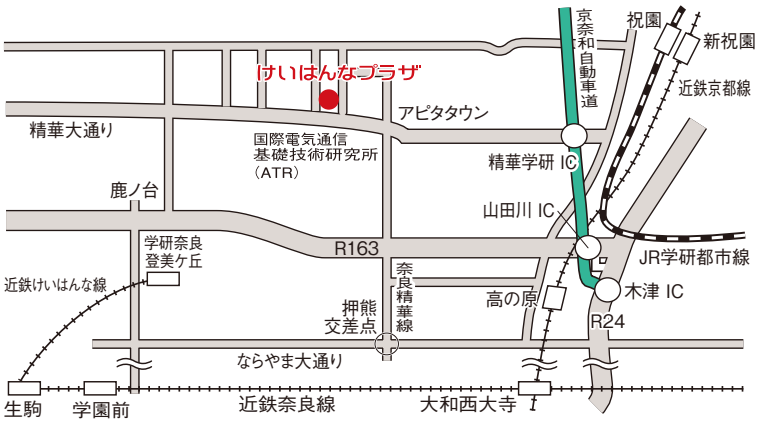
タイトルの“ABC”とは、Agriculture（農業）Business（商業）Community（地域）の頭文字をとったもので、木津高校が地域住民の方々に愛される学校となるために、城山台地区のコンセプトである「農（みのり）のまちづくり」の一翼を担い、生徒と住民の方々とのふれあいの場になってほしいという想いが込められています。新聞やSNSなどでも紹介されたほか、住民の方の口コミにより少しずつ知られるようになり、春季（5／28～7／9）の販売では、延べ約280名のお客様にお越しいただきました。お客様へのアンケートからは、「地元の高校生が頑張っている姿が見られてうれしく思います。これからの日本の農業を助けてください。」といった励ましのメッセージのほか、混雑を避けるための対策のご提案や販売品目のご要望など、マーケットを応援するご意見をたくさんいただきました。

また、この活動には「6次産業化」が推進される社会背景をふまえ、これからの時代に対応できるスキルを生徒たちに身につけさせたいとのねらいもあります。しかし、設備上の問題から、商品開発における「加工」の工程を本校だけでは行うことができず、産学の地域連携が今後の取り組みの課題であると考えています。

秋季の日程は、木津高校のホームページでお知らせします。「城山台ABCマーケット」にぜひお越しください!

京都府立木津高等学校 ➡ HP:http://www.kyoto-be.ne.jp/kizu-hs/

（公財）関西文化学術研究都市推進機構



〒619-0237
けいはんな学研都市（精華町光台1丁目7）けいはんなプラザ・ラボ棟3階
TEL：0774-95-5105　FAX：0774-95-5104

編集後記

戦後70年、高校野球100年と、今年2015年は節目の年、世界に目を移すと、長年国交断絶していたキューバやイランとの歴史的和解で、世界が大きな転換期に入ってきた感もあります。
今我々は平和を享受し想像も出来ないが、100年前は第一次世界大戦の真っ只中、70年前には当時の人口の4%にも及ぶ約300万人もの人命を失ったことを考えると、この100年は「日本史上最悪」から「最良」への激動の時代だったと言えます。

「けいはんな」も、今年は節目の年、翌年度から新ステージとなります。敗戦後「平和」を謳歌し、高度成長に邁進する中で、公害問題・大学紛争等社会の歪が露見した頃、学研都市構想が生まれ、30年以上経過して今日に至っています。1stステージは基盤作り、石油ショック、バブル崩壊、リーマンショックをのり越え、どう都市づくりが進んでいったか？3回シリーズで、紹介します。乞うご期待。（明）

URL　http://kri-p.jp

広報誌 けいはんなView Vol.27 2015年9月発行　編集・発行／（公財）関西文化学術研究都市推進機構　関西文化学術研究都市建設推進協議会　デザイン・印刷／株式会社 大円